

### 第3回みやぎ観光振興会議仙台圏域会議 委員等発言要旨

日時：令和2年8月26日（水）午後1時30分から

会場：宮城県仙台合同庁舎10階1001会議室

#### 意見交換① 議事（1）～（2）についての事務局説明後

##### 山口座長

- 前回、仮ではあったが基本理念と視点の3つは、委員の皆様にご概ね御了承をいただいた。
- 各圏域会議、全体会議において、各視点の柱としてデジタル変革を打ち出すべきとの御意見をいただき、基本理念が「新たな視点による観光の回復と「みやぎ」の新しい観光の基礎づくり」から、「デジタル変革に対応した新たなビジネスモデルを創出し、持続可能で選ばれる観光地をつくる」に修正された。
- 視点の2に、「（1）社会経済活動の回復フェーズに応じた取組の推進」が追加された。

##### 早坂委員

- 基本理念「持続可能で選ばれる観光地をつくる」のとおり、インバンドも含めて、観光客が目を向けなかった地域に新たな観光資源を開発することも必要。
- 岩手県の蔵美溪や狛鼻溪、山形県の最上川の船下りがあるが、県内では阿武隈川ぐらい。ダムも県内に様々あり、十分に観光資源になりうる。ボートや船は、若者にもよい。川下りやダム湖でのボート遊びなど新たな観光としてよい。
- 河川やダムの使用許可は、難しいのか。
- 来年の東京オリンピック等を睨んで、長期的に時間のかかる準備と今すぐできることに分けて、市町村と一体となって進めるべき。

##### 山口座長

- ダムには、治水、利水等の目的があり、河川にもある。目的に反しない限り、可能性はあると思う。
- これから新たな観光資源を掘り起こして磨き上げていくには、県として、横断的に活用できるものは活用して利用していくという考え方も必要。事務局、県へも伝えたい。

##### 事務局

- 基本理念で掲げた「選ばれる観光地」の解釈は、ご指摘のとおり、新たな観光資源の発掘という観点になる。
- コロナ禍で、観光客は安全安心の視点から入るが、宿泊施設や観光施設が安全対策を取っていることが大前提。その上で、地域の観光資源が魅力的であるということがセットということが、今までと違うところ。
- 選ばれる観光地は、圏域の中でしっかりと作り上げていってほしい。

#### 島谷委員

- 視点 1 の (2) 「多言語対応や通信環境の整備への投資にとどまらず、高付加価値な取組を進めることも必要」の「高付加価値の取組」は、具体的には、どのようなことを想定しているのか。
- 視点 3 の (2) 「みやぎにしかないアドバンテージ」の宮城らしい新しい観光のイメージをみんなで共有することこそが大事。今後、イメージをお示しいただき、観光関係者だけでなく、県民一人一人にも理解していただく取組が必要ではないか。
- 事務局、県の考える「宮城らしい新しい観光」とは、具体的にどのようなものか。
- 基本理念のデジタル化は大事だと思うが、コロナ禍前の「宮城の観光」の良さは、人と人との触れ合いだったのではないか。そのようなことについて、デジタル化を進めていくなかでどのように取り込んでいくのが大事だと思う。
- 宮城のおもてなし、きめ細やかな配慮など、過去を検証しながら、また新たに作り上げることも大事な視点。

#### 事務局

- 視点 1 の (2) 「高付加価値化の取組」については、海外の方は、日本の感染症対策に不安を持っていると聞く。それに対応するため、多言語対応等に加え、もっと踏み込んだ対応が必要だという趣旨で記載した。
- 視点 3 「新たな観光を創出する」は、観光のあり方が大きく変わってきており、今までの考え方だけではなかなか進まず、立ちゆかなくなるので、転換していくという意味も含め、こういった表現にした。
- 全てがデジタルに変わるわけではなく、これまで築きあげてきたものは維持したい。しかし、全てがこのまま維持したままいくわけではない。ステイホームでデジタルが重要だと皆さんに認識されたので、デジタルな仕掛けは大事。
- これまでの「宮城の観光」は、おもてなしや、豊かな自然、おいしい食べ物やお酒など。今は、首都圏では密になるので比較的、人の流れが少なそうな地域に魅力を感じる。
- 強みであった部分をもっと強みに、逆に、弱みであった部分を強みに替える。「選ばれる観光地」として、次の宮城の観光に繋げていきたい。

#### 富谷委員

- 石巻圏域には、Wi-Fi、非接触型のサービスの導入等記載してあり、これらを使いこなす世代がターゲットとして決まってくる。そのターゲットをより明確にして、島谷委員のご意見の形で展開すれば、「宮城の宿泊施設は、ワーケーションだったらここ」など、ターゲットを明確にはっきり打ち出せる。首都圏や関東近辺からの観光客に対する「宮城の新しい観光」や「宿泊のあり方」のパターンができると思う。
- 5G や非接触型などデジタルトランスフォーメーションという言葉が本当に的確かは分からないが、業務効率とか改革という意味では、全体的に変わればいいと感じた。
- 安心安全と魅力をどのような形で伝えていくかが、これからのキーになる。県民に伝わ

る形の施策を実施してほしい。

早坂委員

- 他も同じと思うが、地元の商工会、商店会は、高齢化が進んでいる。一部若手で、意欲を持って取り組んでいるが、受動的で行政頼みなところが多いのではないか。彼らにどうやってやる気を起こさせるか。地域の商工関係の活性化という意味では、主役は彼ら。
- 商工会、商店街に対する行政の支援が必要と認識。他県や県内の成功事例を情報提供し、刺激し、みんなで盛り上げないと、地域全体の活性化には繋がらない。
- 各地区に商工会はあるが、商工会の活動がもの足りない。もう少し踏み込んでほしい。地元の商店街の皆さんをどう活気づけるかが大切な要素の一つ。専門家派遣などもよい。

山口座長

- 商工会、商店街は、温度差がある。監督指導機関として、県も関わっているので、折に触れてそういった部分についてもお話を一緒に取り組んでいきたい。

武田委員

- 県内の商工会の役員は定年制が引かれていて、75歳になると役職につけなくなり、昔とは、大分違う。
- 私の町内会では、継続して20年近く毎月第4土曜日に「よい市」を実施している。
- コロナが治まったら、もう一段階上にすすめ、なるべく大勢の方と触れあいたい。

早坂委員

- ここに来ている皆さんは違うが、それぞれ町に帰ると環境も違う。皆さんの熱意が地元商店街の方々に伝わるか不安。

山口座長

- この会議もこの場限りではなく、今後、成長戦略についても検討し、具体的な施策につながれば、皆さんと協力して、次年度以降に向け取り組んでいきたい。

鈴木委員

- お盆以降、大阪からツアーが来る。仙台空港まで飛行機で来るが、バスに乗る際は、定員の半分、大体20名以下で催行。現在、催行しても多い日で4本ぐらい。
- 仙台空港でバスに乗り込む際に、こちらの皆さんの目が気になるとツアーの参加者が言っている。
- こちらの住民も、向こうから来ていただいているお客様も不安がある。やはり、ガイドラインを守って、お客様に安心安全の見える化が必要で、お客様の不安を払拭していくことが一番の対策。
- 教育旅行の学校の先生たちは、安全対策をどのようにしているが一番の質問事項。この

不安の払拭が、今、一番重要である。

- GOTO キャンペーン，東北 DCに向けて，みんなが共有できるような施策を作っていたきたい。それに向けて，一丸となって進んでいく。観光のリスタートに対して，どのぐらい他と差別化できるか。それをしないと他県において行かれる。

## 意見交換② 議事（3）についての事務局説明後

### 山口座長

- 仙台圏域の施策の方向性について、参考資料が前回までの御意見をいただき、それを取り巻く施策の方向性として取りまとめたもの。
- 県で既に安心安全のステッカーや、感染防止対策への徹底に向けた補助、宿泊施設等に対する助成・支援といった事業に着手、事業化に移っているものは除き、御提言の主旨に沿い、集約して事業・取組として、具体的にまとめたもの。
- 今日の説明に対して概ねの御了解を得てから、この方向性で更に中身は精査するが、今後のフェーズの移行に伴い、対応した取組みとして事業化に向けて県として調整していきたい。皆様から質問・御意見等をいただきたい。

### 江口委員

- 安全安心の基準が余りにも不明確すぎている。宿泊施設と飲食施設を運営しているが、何をもって安全安心なのと日々思う。
- コロナ禍から、安心安全がより強調されるようになった。コロナ以前も、お客様は求めてはいたが、コロナ禍で安全安心が、あまりにも注目され過ぎている。むしろ、こういった行動が危険かを発信した方が、危険回避に繋がるのでは。安全安心と逆の言葉だが、同じことと思う。
- 店舗側や施設側ができる対応策は、十分に出尽くしていると思う。それよりも、利用者側がどこに気をつければいいのかを発信することが重要。

### 大沼委員

- 内容は概ね良いが、19ページの石巻圏域の資料が非常に具体的で、一番早急に実施しようとする取り組みが書いてあり、わかりやすい。
- このように細かいと県全体だと難しいかもしれないが、もう少し、わかりやすくしてほしい。これはやれそうだなとわかるような感じを受けるので、石巻だけでなく、全体に波及すればいいと思う。

### 加藤委員

- みやぎ観光回復戦略の基本理念のデジタル化、変革の対応で、⑧番のWi-Fi、5Gの環境整備の支援の取り組みは、来年、オリンピックもあるので、できれば早めに予算化の努力していただければと思う。
- 宿泊施設でクラスターが出て営業できない状態の場合は、県で支援や補償を考えているのかお聞きしたい。

### 山口座長

- 県の支援については、コロナ対策実施中ポスターのほか、まだ介護施設の支援だけかも

しれないが、保健所から基本的な予防対策や疑いのある方の発生時、陽性者が出た場合、  
どういう対応すればいいかとかの研修等は始めている。

- ポスターについて、セルフチェックで良いのかというお話もいただいているが、まず、事業者の方々がどういうことを守らなくてはいけないのかを、自らの施設に思いを馳せていただき、自ら意識していただくことが効果大きいのではないか。
- 万が一、陽性が出た場合には、県が速やかにその対応策についてご指導する。休業補償については、この前の様に行政側で法に基づいて要請して営業活動を休んでいただくことではないので、それについては、次元が違ってくるかと思う。

#### 佐々木委員

- 概ね理解したが、少し気になるところが、需要喚起策。キャンペーンなどいろいろやっているが、高速道路の割引が一緒になれば、もっと後押しすると思うが、それは国の方でしょうから。県として、一緒に合わせて、できるものかどうか。
- 今後、隣接県から来るにしても、高速道路代が割引になってくれば、キャンペーンも実施しているので、来やすくなるのではないか。国との関係なので、非常に難しいと思うが、できるだけ努力をお願いしたい。

#### 大宮司委員

- 具体的な取組の中で、シビックプライドや美術館、博物館の無料化というお話も出ているが、「宮城県の伊達な文化」等で文化財については、観光の面でのアピールが非常にあった。
- 国宝の瑞巖寺や塩釜神社などの神社、お寺は、宗教施設なので県との関係は、勉強不足でわからない。しかし、瑞巖寺は、観光寺ということもあり、お客様も減少した。4月から5月は拝観できなかつたため、収入も厳しいが他の収入もあるので、持ちこたえていると思う。そういった文化財産を抱えている宗教法人に、観光的な面で資金や補助金が出るのかお聞きしたい。
- もう一つは、デジタルスタンプラリーなどシビックプライドをという事をやる時にぜひ子供たちに対するアプローチを入れていただきたい。
- 文化財や地域の自然環境、SDGsなど未来に関する、伝えていきたいもの、より良くしていきたいものに対して、子供たちが親に言うと親がそこに連れて行ってくれると思う。また、ネットを見ながら、家族でここ行ってみたいねとか、そういうスタンプラリーで、実際に行けなくても「こういうところもある」と子供たちが印象を持ってくれるといい。
- コロナは、何年か続くことだと思うので、今、実施するのであれば、若い方たちよりもっと若い小学生、幼稚園の世代にも訴求できるような内容のスタンプラリーもいいと思った。

#### 島谷委員

- 概要には、「デジタル化」が多く見受けられる。仙台圏に居住する130万から140万の皆

さんが、マイクロツーリズムとして県内各地へ出かけていただくためにも、デジタル化に対応しきれてないような方々への取組も必要ではないかと考える。

- 一人でも多くの方に宮城県の観光について興味を持っていただき、参加していただくにはどのようにしたらいいのかなど考えると、デジタルに対応が難しい方についての対応方法など充分検討をいただいたうえ、両面で進んでいけば良いのではないかと。
- 質問の1点目として、7つの圏域があり、他でも同じようにいろいろ取りまとめていると思うが、今後、全体会議の中でどのように反映、動かしていくのか、教えていただきたい。
- 2点目として、各圏域でこのような取り組みを考えて、着手時期や予算額などいろいろなことを検討しているが、こういったことを全体で進めていくには、しっかりとした予算取りがないと途中で事業縮小などにつながるのではないかとと思うが、その辺りのこともお伺いしたい。
- 3点目として、圏域会議の他に市町村が参画する会議が行われているのかどうか分からないが、この会議には市町村の参加はない。全体で進めていくには、市町村との連携、市町村同士の取組を繋ぎ、強化していくことが重要であり、欠かせないことと思う。
- 4点目として、全体会議の中で市町村の参加について指摘はあるのか。市町村から意見を聞くことで面になっていくと思うがその辺りも教えていただきたい。

#### 事務局

- 各圏域会議から出てきている御意見を全体会議でどの反映していくのかについては、各圏域で御議論いただいている中で、県で横断的に行うべきものと各圏域でやることは地域によって課題が違う。
- 全体会議では、県全体として何をやるべきかの視点を議論する。全体会議にのせるにあたって、各圏域から共通の課題が当然出てくるので、それがある意味、県全体の課題となる。そういうところは引き上げて、全体会議の中で議論していただくと考えている。
- 各施策は、安全安心対策とひとつとっても、各圏域でバラバラに実施しも仕方ないので、こういったものは県全体で考えて実施していく。
- 場合によっては、各市町村で実施してもらう事業も当然出てくるかと思う。各市町村もコロナ交付金というのは、地方創生の交付金、臨時交付金が各市町村にも配分されており、そういったものを使って各市町村様々に取り組んでいるので、我々の全体とも相乗効果が出るように反映をさせていきたい。
- 予算については、我々としても最大限努力する。それぞれの事業の予算化が期待されていると思うが、すべて予算の裏付けがとれるかどうか。まさに今、財政部局と議論を開始しているところ。可能な限り各圏域の施策については、何かしら予算化できるように、しっかりと財政サイドには働きかけていきたい。
- 市町村については、市町村の観光関係の取組も照会をしていくことになると思う。会議の資料、報告書の中に市町村の取組もリンクさせていただく。
- その中で、市町村の実施している中身を今の柱の中に上手くちりばめていくことと、市

町村の取組みがどのページでどのようにやられていくのかという部分も合わせて整理させていただきます。

#### 富谷委員

- 仙台圏域の観光施策の方向性等及び取組みについて1番から8番までであるが、後になって、仙台圏域は何をやったのかをわかりやすく振り返れるようにしていただきたい。効果的であるということも大切だ。
- 例えば、1番と3番と4番、デジタルスタンプラリーと、冬の街歩きを促進する取組みをセットにするとか、何をどのようにして、県民に訴えて、その効果、それが効果的であったかどうか、わかるような形にしてもらえれば。
- シビックプライドの醸成もあり、なるべく掛け算でそれがわかりやすくしてほしい。
- 3番、視点3の新しい価値からみやぎの新しい観光そして・・・となっているが、7番8番だけでいくと、一見、ハードウェアの整備のように感じる。インフラの整備の形に見えるので、6番に丸がついてもいいと思う。3番、3の1としてマルがついていいと思う。6番に地域の魅力再発見もあったので。

#### 大宮司委員

- 先ほどの、県民の皆様が共通のイメージや方向性を持って宮城県の観光の新しいイメージの形を作っていくという意見に関して、色々なツールで発信していくということだと思うが、マスコミや県の広報など、いろんな媒体があると思う。
- 広報媒体はデジタルも紙もあるが、例えば新聞などのメディアで各年齢にアプローチするには、予算が結構大きくなると思うので、県全体のPRに入れ込んで予算化するのがいいのかと思う。

#### 事務局

- これまでもいろんな形で、新聞社やいろいろなマスメディアを使ってそれぞれ広報をしてきている。
- 県民の皆様に、今回の回復戦略のポイントを「宮城の観光のイメージ」として共通認識で持っていただくためには、会議だけでやっても共有されない。上手くマスメディアを使わせていただき、県民の皆様に理解を深めていただくという手法はあると思う。

#### 山口座長

- 3回にわたって皆様から貴重な御意見・御提案をいただき感謝申し上げます。
- 資料3で示したとおり、圏域として取り組むべき方向性を取りまとめることができた。
- まず、県内回復期に早期に着手をすべきという企画で、9月から地域を絞った誘客促進、あるいは山形県との相互交流など、域内交流の促進に向けた取組みに着手して取り組んでいく。
- また、国内回復期や国外からの誘客発展期を見据え、今後事業化が必要なものの予算化が



必要な取組み、あるいは県全体として取り組んだ方が良いと思われる施策については、県として予算の確保について調整していきたい。

#### 事務局

- 文字だけではなく概念として、県民や事業者の皆様のなかで、宮城の観光をどうしていくのかを知恵を絞って、イメージがしっかり皆様に伝わるように工夫をしていきたい。
- 安全安心の関係については、現在県で取り組んでいる取組みに加え、県としてどういったことができるのかということも、引き続きしっかりと検討していきたい。旅行者の目線で見ると、やはり安全安心というところが今回のコロナ禍においてクローズアップされている部分である。
- 発信方法については、感染対策を講じていることの発信だけではなくて、利用者側としてこういうことは控えていただきたいという表現を含めて、どういった発信の仕方がいいのかを検討していきたい。
- 各圏域からいただいた御意見は、全体会議に反映させ、しっかりとした回復戦略を作り、宮城全体が回復できるよう取り組んで参りたい。